

2 風水害に関する基礎知識

(1) 特別警報・警報・注意報の発表

気象庁は、気象要素(表面雨量指数、土壌雨量指数、流域雨量指数、風速、波の高さ、潮位など)があらかじめ定めた基準に達すると予想した区域に、警報・注意報を発表します。

また、警報の発表基準をはるかに超える豪雨等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、特別警報を発表し、最大限の警戒を呼び掛けます。



近年、限られた地域で短時間に降るゲリラ豪雨による浸水被害が発生しています。この集中豪雨をもたらす積乱雲(入道雲)は短時間で急激に発達するため、予測が非常に困難です。インターネット、テレビやラジオ、電話(177)などを利用して、気象庁から発表される気象情報に注意し、早めの対応を心がけましょう。

警報・注意報の発表基準

種別	基準
大雨・洪水	表面雨量・土壌雨量・流域雨量の各指数基準に達すると予想される場合
雷	落雷等により被害が予想される場合
暴風警報	【警報】平均風速が、陸上で 20m/秒、海上で 25m/秒以上と予想される場合
強風注意報	【注意報】平均風速が、陸上で 12m/秒、海上で 15m/秒以上と予想される場合

特別警報の発表基準

種別	基準
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合
暴風	数十年に一度の強度の台風(中心気圧 930hPa 以下又は最大風速 50m/s 以上)や同程度の温帯低気圧により暴風が吹くと予想される場合
津波	高いところで 3 メートルを超える津波が予測される場合 (大津波警報を特別警報に位置づける)
津波 (地震動)	震度 6 弱以上の大きさの地震動が予測される場合 (緊急地震速報(震度 6 弱以上)を特別警報に位置づける)

国土交通省気象庁ホームページより抜粋

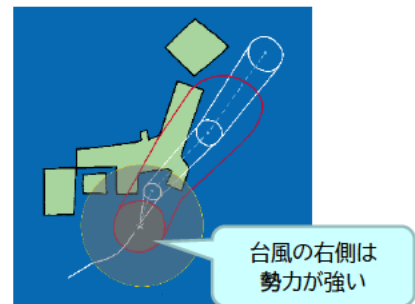
(2) 台風

熱帯や亜熱帯の海上で発生した低気圧(熱帯低気圧)のうち、中心付近の最大風速が 17.2m/s 以上になったものを台風と呼びます。台風は、日本付近に停滞する前線の活動を活性化させ大雨を降らせます。

台風は巨大な空気の渦巻きになっており、地上付近では上から見て反時計回りに強い風が吹き込んでい

ます。そのため、進行方向に向かって右側(東・南側)では、台風自身の風と台風を移動させる周りの風が同じ方向に吹くため、雨風を特に注意する必要があります。

逆に左側(西・北側)では台風自身の風が逆になるので、右側に比べると風速がいくぶん小さくなります。



(3)雷

大阪市では、平成 24 年、野外コンサートを見に来ていた女性2人が落雷で命を落としました。

雷から身を守るために一番大切なポイントは、積乱雲(入道雲)の接近を知り、早めに避難することです。

安全な場所

自動車、バス、列車、飛行機、鉄筋コンクリートの建物の中など。

建物の中は雷の心配はないので安全ですが、全ての電気器具、天井、壁から1メートル以上離れてください。

危険な場所

グラウンド、ゴルフ場、屋外プール、海など開けた土地、テント・トタン屋根の仮小屋など。

雷雲が遠ざかって雷鳴が聞こえなくなっても、20 分くらいはまだその雷雲から落雷の危険があるので、安全な場所で待機してください。



(4)竜巻

近年、たびたび竜巻注意情報が発令されています。竜巻は狭い範囲で突発的に発生することが多いため、大雨等と比べるとあらかじめ予測することは困難です。

竜巻が迫ったときの特徴(竜巻に遭遇した人が体験した状況)

- 雲の底から地上に伸びる漏斗状の雲を見た。
- 飛散物が筒状に舞い上がるのを見た。
- ゴーという音がしたのでいつもと違うと感じた。
- 気圧の変化で耳に異常を感じた。

竜巻が間近に迫ったときにとる行動

【屋外】

- 頑丈な構造物の物陰に入って、身を小さくする。
- 物置や車庫・プレハブ(仮設建築物)の中は危険なので避ける。
- シャッターを閉める。

【屋内】

- 家の1階の窓のない部屋に移動する。
- 窓やカーテンを閉める。
- 窓から離れる。
- 大きなガラス窓の下や周囲は大変危険なので離れる。

